

薬史学会通信

No.33 2002年7月

〒113-0032

東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内

日本薬史学会事務局

Phone (03) 3817-5821

FAX (03) 3817-5830

日本薬史学会平成14年度年会の お知らせ

と き 平成14年10月12日(土)11時～

と ころ 富山市・電気ビル・5階中ホール
富山市桜橋通り3-1(JR富山駅より徒歩5分)

特別講演 1. 20世紀の製剤技術
内藤記念くすり博物館前館長 三宅 康夫 氏
2. 越中蘭方医と高岡町
富山医科薬科大学名誉教授 正橋 剛二 氏
3. ヒト腸内細菌による和漢薬成分の代謝
日本医史学会評議員 小橋 恭一 氏

一般研究・口頭発表
(次ページ参照)

参加費用
年会参加：千円、懇親会(予約会費)：4千円

共 催 (社)富山県薬剤師会
(財)日本薬剤師研修センター
日本薬史学会平成14年度年会実行委員長 大橋 清信 氏

年会参加申込および宿泊・史蹟観光予約申込については色刷別紙をご覧ください。

日本薬史学会・平成14年度年会プログラム

開 会：11時

特別講演・1 (11:05～11:50)

(内藤記念くすり博物館前館長) 三宅 康夫 「20世紀の製剤技術」

特別講演・2 (12:50～13:35)

(富山医科薬科大学名誉教授) 小橋 恭一 「ヒト腸内細菌による和漢薬成分の代謝」

一般研究発表、発表は各20分

(13:40～14:40)

1. 薬史学会○山川浩司、東京理大薬・西谷潔「薬学領域における分離技術革新の史的研究」
2. 応用薬理研・小澤光、東北大薬剤部○村井ユリ子「新薬50年史—糖尿病治療薬の開発・変遷とその疫学的動向」
3. 薬史学会・末広雅也「薬学領域におけるホルモン研究史・2・Brown-Sequard 以後の性ホルモン研究の流れ」

(14:40～15:40)

4. 石川県薬剤師会・徳久和夫「ローレツの講義録に見る明治初期の調剤学「老裂氏方叢」その1」
5. 薬史学会・黒澤嘉幸「陸軍衛生材料廠・1」
6. 日仏薬学会・竹中祐典「大井玄洞—日本におけるトキシコロジーの先駆者」

(15:40～16:40)

7. 新見女子短大・石田純郎「オランダの薬店の木製開口人頭看板について」
8. 九大言語文化研大学院・ウォルフガング・ミヒエル「1672年の出島蘭館における薬油蒸留とその背景について」
9. 薬史学会・奥田潤「国宝・重要文化財、薬師如来像内の納入品について」

(16:40～17:40)

10. 金沢大薬○御影雅幸、吉澤千絵子、医史学会・多留淳文「『医学天正記』に見られる芳春院殿(前田利家妻まつ)診療記録」
11. 薬日新聞社・田辺勝「『赤玉腹薬』の起源をもとめて」
12. 富山県薬剤師会・大橋清信「江戸期越中壳薬の薬方について」

特別講演・3 (17:45～18:30)

(日本医史学会評議員) 正橋 剛二 「越中蘭学と高岡町」

懇親会(年会終了後、富山市電気ビル食堂)

◆新刊紹介 日本^の薬学(薬事日報新書13)

辰野高司 著 (株)薬事日報社 2001年9月発行 本体1,300円

今の日本は21世紀らしい改革が求められている。これは20世紀における科学技術の目覚ましい進歩と社会経済の発展とがバランスを失ったためで、改革の波は「医療システム」、「薬学教育」、「製薬産業」という日本の薬学と深く関わりのあるすべての分野に押し寄せている。この時に「あるべき薬学の姿」を求め続けてきた辰野高司博士に依って本書が刊行されたことの意義は大きい。「日本の薬学」は1966年に紀伊国屋新書として出版された。その当時、著者は諸外国で開発された医薬品を製造する技術を持つに至った日本が疾病を確実に克服するべき医薬品を創製することの出来ないのは何故なのかという問題に焦点を当てて考察をしたが、その課題を克服して日本でも新薬を創製することが出来るようになっても薬による重大な副作用や薬害の発生を回避するという問題は完全に解決されてはいないので、前著を絶版としたが、薬学概論の講義などを通じて改版を企図してきた著者の願いが結実して薬事日報社より刊行された。この間三十有余年の科学技術の進歩と医療の一環を担う薬学に対する社会の期待が大きく変化したことは言うまでもない。これらの事項がどのように取り入れられているかを見てみよう。

本書は第1章、薬の歴史 第2章、日本における近代薬学 第3章、日本の薬学教育 第4章、薬と社会 第5章、あるべき薬学の模索 終章、この本の理解のために の6章で構成されている。「臨床薬学の発祥」が第1章に挿入された。第2章では「薬学の衛生学」と著者自身が参画した「カビ毒」による黄変米の研究、有機化学一辺倒から生物化学、薬理学、薬剤学の導入が大きく取り上げられている。薬学教育の問題は現在なお未解決の問題を含んでいるが、前著にあった「女子学生の問題」の一項が姿を消したのは当然の事である。第4章、第5章は一部分の事項を除いて前著では記されなかった「医薬品産業をめぐる問題」と「薬学の新しい芽生え(薬学概論と社会薬学)」と「なぜ重篤な副作用・薬害がなくなるのか」に関連してアメリカの臨床薬学から「倫理規定」と「薬物療法と薬剤師の役割」や新しい学問領域の「遺伝薬理学(遺伝的要因を考慮した薬理学)」、「病理学的薬理学(患者の持つ疾病による医薬品の作用性の変動)」、「衛生学的薬理学(患者が置かれている衛生環境の差による薬物の作用性)」が紹介されて、最後に薬学教育の教育年限の項目に於いて「医療を誤りなく支える薬剤師を養成する唯一の学部が薬学部であることを忘れないでほしい」と述べられている。(末廣雅也)

伊沢凡人・辰野高司 著 『効けば効くほど薬はこわい』

2002年1月刊、B6版、192頁(ダイヤモンド社) 定価1,600円

著者の伊沢凡人氏は若い時から生薬、薬草に親しみ、神田に漢方を中心とする漢方調剤薬局を開局して、医療の実践的な活動を続けている。また医療と薬、薬学の在り方について長年にわたり積極的で指導的な役割を果たしてきている。「薬学を愛するものの会(薬愛会)」を組織しその中核の役割を続け、現在でも薬と医療の在り方について活発な発言を続けてきている。辰野高司氏は学界に籍を置きながら象牙の塔に止どまらず、薬愛会の活動に伊沢氏に協力してきた。

本書は最近における伊沢氏の発言を辰野氏が整理したものを定本として、辰野氏の質問に伊沢氏が答える両氏の対談の形としてまとめられたものである。本書の書名は著者の言い分の半分しか示していないと言う。現代の医療に使われる医薬品は作用は強いが、適用の仕方を誤る

とその副作用は恐ろしい。この仕組みはますます深刻なものになっている。現代の医薬品は体の部分に作用する役割しか見ず、体の全体をみる視点に欠けているという。ここに現在の医療の欠陥と問題があると指摘する。このような観点から降圧剤をはじめとして薬の使い方などが論ぜられる。薬の使い方から、薬が効く、治るということをごどのように考えるのかを問い直す。正しい新しい中医(漢方)について、両氏の対談を通して問い直す本書から、目からうろこが落ちる思いがする。ある意味では本書は現代医学および薬学の批判の書で、医療問題を根源的に見直す書でもある。

(山川浩司)

米田該典 著「洪庵のくすり箱」

大阪大学出版会 2001年1月発行 1,500円

緒方洪庵(1810~1863)は、1838年(天保9)大阪瓦町(大阪市中央区)に蘭学塾(適塾)を開き、診療の傍ら、橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉、長与専齋ら幕末から明治時代を背負う有為な人材を多数、育成したことは、良く知られたところである。

適塾は、1942年(昭和17)に緒方家から国に寄付され、重要文化財に指定されて、大阪大学が管理することになった。1980年(昭和55)、適塾で行われた展示会で、洪庵使用の薬箱に興味をもった著者は、薬学者の眼で薬箱に収納されている薬物の分析を行った。薬物は蘭方用薬、漢方用薬からなっており、薬袋に生薬、あるいは丸薬の形で保存されていた。これらの生薬の中から、摂綿(セメン)、將軍(大黃)、桂枝、甘草などについて、大阪大学の保存資料、あるいは正倉院の薬物と比較分析を行った。また、そこに内蔵されていた薬物(センナ、ハシリドコロなど)から当時の生薬の流通の歴史を推察し、その保存薬物は原状に近い性状で保存されており、正倉院宝蔵庫の薬物とも共通するものが多かったと述べている。

本書では、洪庵の生い立ちから幕末の薬事情、蘭方薬の供給などの詳細にも触れている。なお、適塾出身の長与専齋は、明治政府の近代医療体制の確立に大きな力を発揮し現在のわが国の医療体制の基礎を築いた経緯も述べている。近代日本の医療の黎明期に大きな役割を果たした適塾の歴史を中心とした本書の一読をお薦めする。

(山田光男)

医薬史蹟と薬草園の情報をお知らせください

本会では平成16年(2004年)の「日本薬史学会50年史」を発刊します。先に「薬史学雑誌」に「医薬史散歩」の掲載を呼びかけましたが意図したほど進んでいません。そこで50年史に医薬史蹟と薬草園について紹介することにします。会員に全国の医薬史蹟および薬草園の紹介をお寄せください。本会の「薬史学通信」に紹介し、日本薬史学会50年史に収載することにします。次の情報を本会の事務局までにお寄せください。

お知らせ頂きたい情報

1. 医薬史蹟および薬草園の名称(建造物の場合はその名称)
 2. 内容の紹介(どのような史蹟なのか:展示内容、碑またはレリーフ、墓など)
 3. 所在地(史蹟の所在地の住所;交通の案内、見学の可否と見学時間、見学料など)
- 出来れば写真に説明を記して添付してください。

日本薬史学会 平成14年度年会（富山）参加申し込み

1. 参加申し込みは、次ページ申込み書式、または各事項を FAX または郵便で、申し込み先である 富山県薬剤師会へお送り下さい。

〒 930-0018 富山市千歳町 1-4-1. 社団法人 富山県薬剤師会
F A X 076-442-3308 TEL 076-432-2577

2. 参加費等は、同封払込用紙を使用、通信欄に該当事項を記入し、郵便振替としてお振り込み下さい。
年会事務局作成の払込用紙が無い場合は、既成の用紙に、次ページ記載のひな型を参考に記入し手続きして下さい。
これをもって申し込み確定とし、「振込金受領証」を領収書に代えます。
3. 申込締め切は 平成14年 8月30日（金）です。

※会場整理の都合上、予約参加を原則としますのでご了承下さい。
なお、当日受付も設けます。

日本薬史学会 平成14年度年会（富山）参加申し込み書

平成14年 月 日

(ふりがな) ご氏名
ご住所 (〒)
連絡先電話
参加費（該当番号に○印） 1. 年会 1,000 円 （当日納入 1,200円） 2. 昼食代 1,000 円 3. 懇親会 4,000 円 合計 円 （郵便振替で申し込み）

00 払 込 取 扱 票											
口座番号				百 十 万 千 百 十 番				金 額			
千	百	十	円	千	百	十	番	千	百	十	円
0	0	7	7	0	8			7	8	0	1
加入者名 社団法人 富山県薬剤師会								料 金		特殊取扱	
通 信 欄 日本薬史学会・平成14年度年会（富山） 平成14年10月12日（土）開催 1. 年会 (1,000 円) (当日納入 1,200円) 2. 昼食代 (1,000 円) 3. 懇親会 (4,000 円) (項目に○印をつけて下さい)											
払込人住所氏名 (郵便番号) (電話番号 - -)								受付局日附印 (郵政省)			

宿泊・史跡観光についてのご案内

1. 宿泊予約について

10月12日(土)の宿泊を下記の通り用意しております。

タイプ	宿泊料	施設名
シングル ツイン	8,000円 税金・サービス料含む 1泊朝食付 シングル・ツイン同料金	・アパホテル富山駅前 ・富山マンテンホテル ・ホテルルートイン富山 ・他 同等クラス

2. 史跡観光について

10月13日(日)の史跡観光を下記の通り企画しております。

参加費 6,500円(最少催行人員20名)

9:00	9:30	10:00			
富山市内	市民プラザ (車中より)	富山県民会館分館金岡邸 (下車見学)			
10:30	10:40	11:20	12:10	12:30	13:30
富山市民俗民芸村(売薬資料館) (車中より)		高岡瑞龍寺 (下車見学)		高岡駅	富山駅

3. 申し込み先

東急観光富山支店(国土交通大臣登録旅行業38号)

〒930-0003 富山市桜町1-4-5

TEL(076)431-7638 FAX(076)441-6790

担当 藤田 秀和

申込締切り 平成14年8月30日(金)

4. 注意事項

- (1) 宿泊・史跡観光とも人員に限りがあり、申し込みの早い順に承りますので、お早めにお申し込み願います。
- (2) お申し込みいただいた方には、9月14日(金)頃までに宿泊予約券・史跡観光参加証をお送りします。ただし、史跡観光の参加人員が最少催行人員20名に満たない場合は中止とさせていただきますので、予めご了承下さい。中止の際は事前に申込者にご連絡いたします。
- (3) ご宿泊のホテルにつきましては、ご一任願います。
- (4) ほとんどシングルにて確保しておりますが、一部ツインも確保して有ります。尚、ツインご希望が多い場合はシングルにて手配させていただく場合がありますので、ご承知願います。

5. 振込先
- | | |
|-------|-----------------|
| 金融機関名 | 北陸銀行富山駅前支店 |
| 口座番号 | 普通預金 No.1049280 |
| 口座名義 | 東急観光富山支店 |

日本薬史学会平成14年度年会(富山)
 宿泊・史跡観光申し込み書

(ふりがな)			
ご氏名			
ご住所	(〒 -)		
連絡先電話	自宅TEL () -	勤務先TEL () -	
ご宿泊	する	シングル	※ 同室者名
	しない	ツイン	
史跡観光	参 加 ・ 不 参 加		
お申込代表者 ご氏名			
ご住所	(〒 -)		

※ ツインご希望の場合は同室者名をご記入下さい